

当院産婦人科で行っている内視鏡手術

産婦人科で行っている内視鏡手術には腹腔鏡下手術、子宮鏡下手術があり、開腹手術を含めて担当医が診察（MRI）で判断を行います。

- 腹腔鏡下手術：2～4個の小さな切開（5～12mm）を入れ、炭酸ガスでお腹の中を膨らませて行う手術

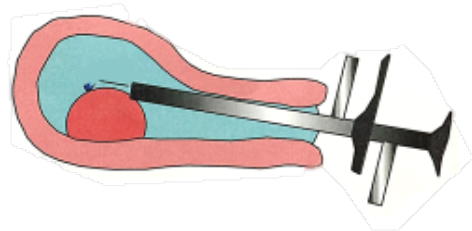
パラレル法



ダイヤモンド法



- 子宮鏡下手術：子宮内にカメラ付き手術器具を子宮内に挿入して行う手術（創部がない）



ERAS（Enhanced Recovery After Surgery：早期回復）という考え方

当院婦人科の内視鏡手術は、小さい傷で手術を行うことでなく、ERAS（早期回復）を目指すことを目的としている。

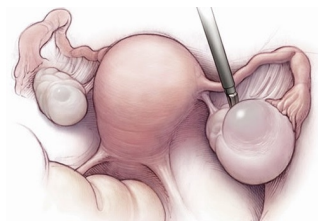
- 術後疼痛：術式に応じて、数種類の鎮痛剤を併用している。
- 術後の吐き気：制吐剤使用だけでなく、吐き気を誘発する過剰な鎮痛剤使用を控えている。
- 術前治療：不必要なものは、積極的に廃止。
- 絶飲食時間：可能な限り短縮する。

・子宮筋腫



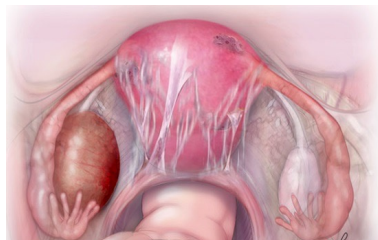
子宮の筋肉に発生する比較的固い腫瘍で、女性ホルモンで増大する。子宮の内側に発生すれば出血症状（不正出血、月経量増加）や月経痛増悪などが起こることがあり、外側に発生すると圧迫症状（頻尿、腰痛、腫瘤感など）が発生することがある。

・卵巣腫瘍



卵巣内に液状（固形）成分を含んだ嚢胞（袋）を作り、徐々に腫大する腫瘍であり、腫大した卵巣が捻じれたり、破れたり、他の臓器を圧迫したり、悪性化することがある。

・子宮内膜症



不明な部分も多いが、女性ホルモンにより子宮内に子宮内膜が作られ、月経時などにお腹の中へ子宮内膜が逆流することがある。多くは、お腹の中で吸収されるが、お腹の中に生着すると、臓器が癒着したり、臓器の中に侵入し、臓器の一部が腫大することがある。その結果、特徴的な激しい痛みや月経量が非常に多くなったりすることがある。

当院産婦人科で行っている内視鏡術式

子宮筋腫：腹腔鏡下子宮筋腫核出術（子宮筋腫のみ切除する手術）
腹腔鏡下子宮全摘術
子宮鏡下子宮筋腫核出術

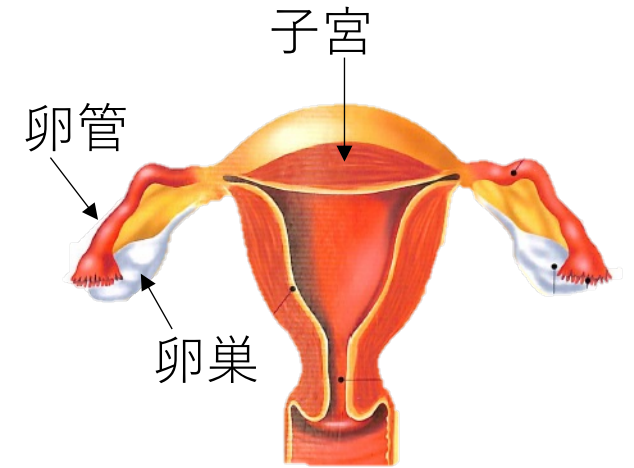
子宮腺筋症：腹腔鏡下子宮全摘術

卵巣嚢胞：腹腔鏡下卵巣嚢胞核出術（卵巣の嚢胞部分のみ摘出する手術）
腹腔鏡下付属器摘出術（腫瘍が存在する側の卵巣と卵管を切除する手術）

子宮内膜ポリープ：子宮鏡下子宮宮内膜ポリープ摘出術

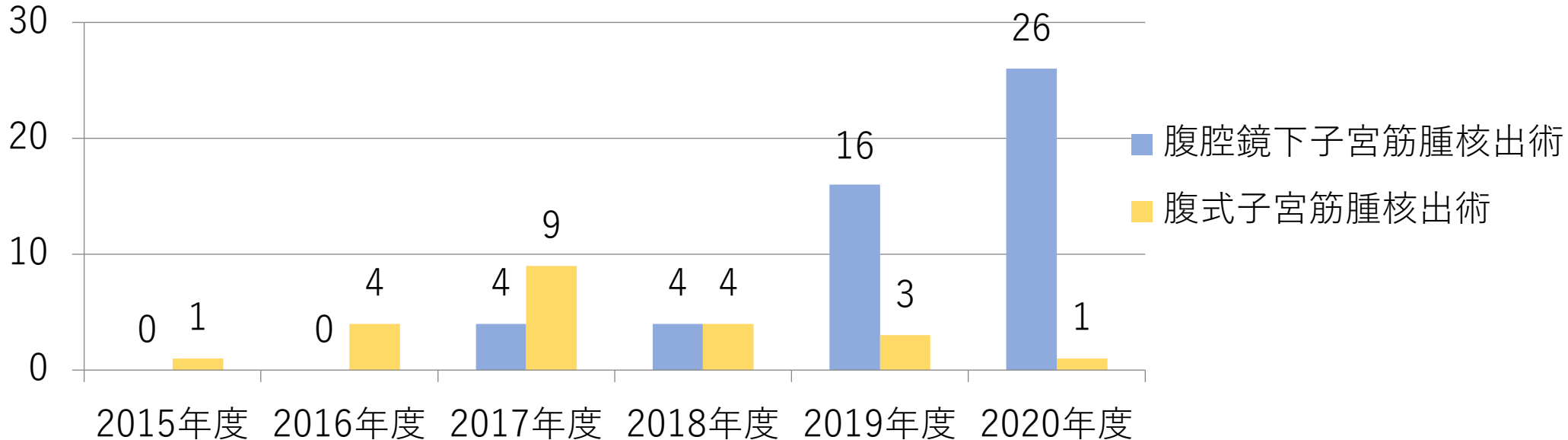
卵管腫瘍、異所性妊娠：腹腔鏡下卵管摘出術

※当院では、悪性腫瘍に対する内視鏡手術は行っておりません。

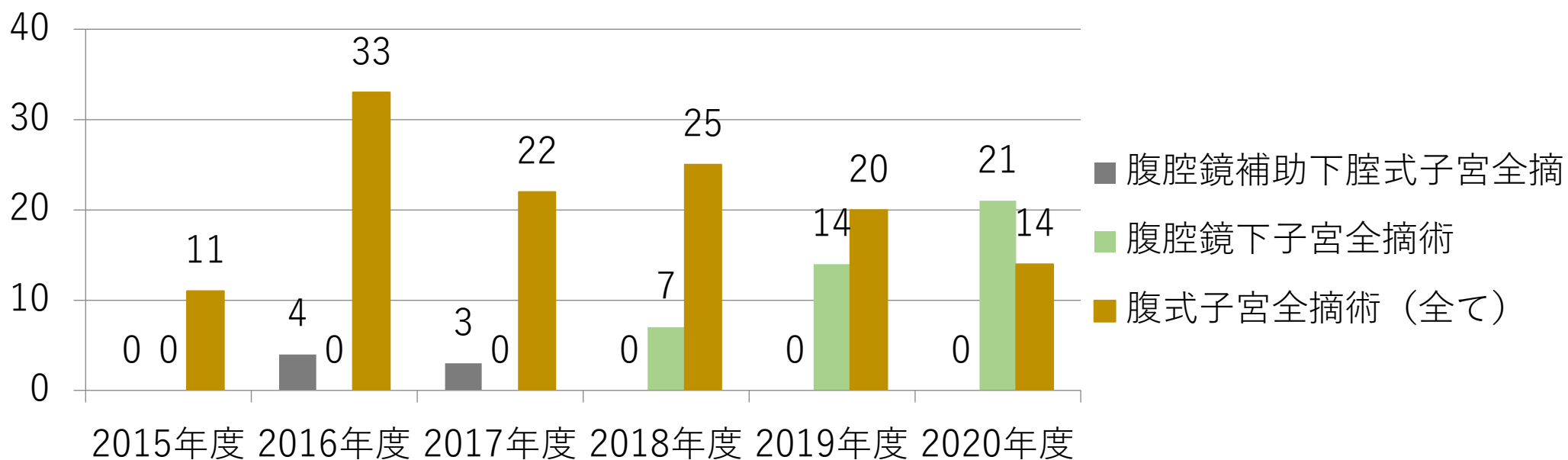


内視鏡手術の手術件数推移

・子宮筋腫核出術

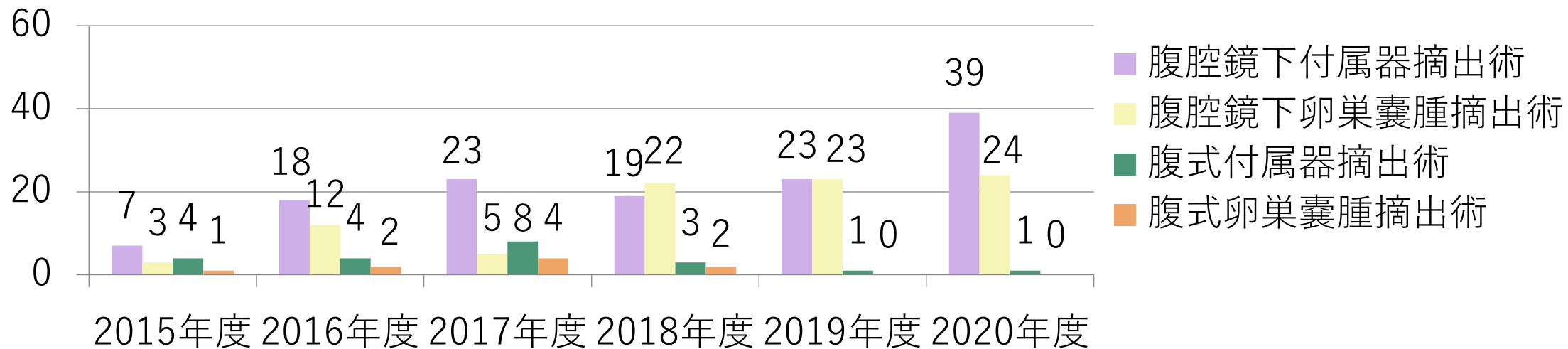


・子宮全摘術



内視鏡手術の手術件数推移

・ 卵巣嚢胞手術



・ 子宮鏡手術

